

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

調査対象：2年生

調査事項

ア 実技に関する調査

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査）

1 結果と分析

- 男子は、上体起こし（筋持久力）、ハンドボール投げ（巧緻性、瞬発力、筋力）などの能力を発揮するための筋力に優れている。
- 女子は、長座体前屈（柔軟性）、ハンドボール投げ（巧緻性、瞬発力、筋力）50m走（走力・スピード）などの能力を発揮するための筋力も優れている。
- 男女ともに20mシャトルランの全身持久力を要する種目の結果が課題である。

2 取組についての評価

(1) 保健体育科の学習指導

①効果があった取組

- ・タブレット端末などのICTを活用し、動きの見本動画を提示したり、生徒自身の運動を撮影して振り返らせたりすることで、課題の発見と技能向上につなげた。
- ・個人やグループのできるようになったこと、成長を実感させるための自己評価や振り返りの設定をすることで、学習の定着を促し、次時の目標設定が明確になり、主体的に学習に取り組む態度の育成と教師の指導改善につなげた。

②改善を図る点

- ・生徒の体力を向上させるために、体育の授業で行う補強運動を継続して行うこと。
- ・生徒が主体的に学習に取り組めるような授業内容や教師の働きかけを行うこと。

(2) 今後の体力向上に対する取組

- ・保健体育科の授業において、授業開始時に短時間の基礎的運動を継続して取り入れ、体力の維持・向上を図る。
- ・保健体育の授業を通して生徒が「運動したい」「運動が好き」「運動が楽しい」と思うような教材研究を行う。